



Title	太宰治スタディーズ 別冊第3号 著者紹介
Author(s)	
Citation	太宰治スタディーズ 別冊. 2017, 3, p. 31-31
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/62136">https://hdl.handle.net/11094/62136</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 著者紹介（掲載順）

松本和也（まつもと・かつや）

立教大学大学院文学研究科博士課程後期課程修了、博士（文学）。現在、神奈川大学教授。著書『昭和十年前後の太宰治 〈青年〉・メディア・テキスト』（2009.3、ひつじ書房）『昭和一〇年代の文学場を考える 新人・太宰治・戦争文学』（2015.3、立教大学出版会）、論文「横光利一「純粋小説論」同時代受容分析 —— 昭和一〇年代における社会性」（『横光利一研究』2017.3）、資料紹介「太宰治「玩具」材源考 —— ボードレール受容と詩への志向」（『太宰治研究』第25輯、2017.6）ほか。

大國眞希（おおくに・まき）

東京学芸大学連合大学院修了。博士（教育学）。現在、福岡女学院大学人文学部教授。人間によって象徴化されたとの観点から文学作品を、絵画や音楽との比較を通じて研究している。近年は特に〈音〉に注目した環境教育と文学教育との横断的研究をおこなっている。著書『虹と水平線』（2009.12、おうふう）、『太宰治 調律された文学』（翰林書房、2015.10）、論文「〈音〉と〈空間〉を読む「国語」教育の理論と実践」（『水月』2015.4）など。

斎藤理生（さいとう・まさお）

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。現在、同准教授。博士（文学）。著書『太宰治の小説の〈笑い〉』（2013.5、双文社出版）、論文「『二十世紀旗手』評釈（一）～（五）」（『太宰治研究』第21～25輯、2013.6～2017.6）、「織田作之助『土曜夫人』論一「読売新聞」を手がかりに」（『語文』2017.2）、資料紹介「織田作之助全集未収録作品紹介（一）「近頃大阪色」「禍なる哉長髪」」（『阪大近代文学研究』2017.3）ほか。

\*\*\*\*\*

寺澤誠人（てらさわ・まこと）

信州大学大学院人文科学研究科修了、修士（文学）。論文「谷崎潤一郎「金色の死」試論 —— 〈鏡〉を描くこと ——」（『ゲストハウス』2016.9）、共著「善光寺（諏訪市）蔵『当寺記録帳』紹介と翻刻」（『信州大学附属図書館研究』2017.1）。